



暮らす旅 京都 ろおじの魔力

文／松岡伸吾 (暮らす旅舎)

写真協力／studio BOW

暮らすように旅することこそ、旅の極意だと思う。大切なのは食。

初めての土地でも、名所巡りは後回し。まずはその土地ならではの食材を求め市場やスーパーに出かける。食事や買い物に行けば店の人と言葉をかわす。そこにはガイドブックでは得られない出会いやニュースがある。

そんな視点から京都の本を5冊出してきた。でもなぜ京都なのか。

全国の町がシャッター街をかかえ、大型店舗が郊外を席卷する今も、京都には小さな店が多く残るし、若い世代が立ち上げた店舗も少なくない。東京に続々オープンする商業施設は、どこも似たような店ばかり。ちょっとめずらしいと思えば、地方発の店舗だったり。

京都の町のあちこちにある細い路地。これは「お」に軽くアクセントを置いて「ろおじ」と呼ばれる。不思議な佇まいに惹かれ恐る恐る入れば、行きどまりもあるが、中には本屋や雑貨店、喫茶や料理店などさまざまな店が見つかる。その楽しみをまとめた暮らす旅舎の最初の本が『京のろおじ』だ。

そしてこの春6冊目となる『福をよぶ 京都・暮らし暦』（仮題）を青幻舎から刊行する。おせちなど行事料理に詳しい料理研究家小宮理実さんが著者で、二十四節気を大事にする祖母や母から受け継いだ京都の食と暮らしを紹介する。

さて食でやっぱりお勧めしたいのは京都の市場。観光客で溢れかえる錦市場よりも、七条の京都市中央市場はぜひ訪れてほしい。



店と住宅が混在する西陣の路地



宮川町の路地で撮影した表紙



料理研究家の小宮理実さん